

壹、伊勢暦について

まず伊勢暦がどのようなものだったのか調べてみましょう。

- ・ 宇治山田市史 上【L243/ウ/1】
宇治山田市役所/編纂
- ・ 三重県史【L201/ミ】 三重県/編集
- ・ 伊勢のはなし【L388/コ】
郡 敏子/著 三重県郷土資料刊行会
- ・ 歴史読本（1987年3月号）
神々の聖域 伊勢神宮の謎【L170/レ】
新人物往来社
- ・ 日本大百科全書 2【R031/ニ/2】 小学館
- ・ 国史大辞典 1【R210.03/コ/1】
国史大辞典編集委員会/編 吉川弘文館
- ・ 暦の百科事典【R449.0/コ】
暦の会/編 新人物往来社
- ・ 暦と時の事典【R449.0/ウ】
内田正男/著 雄山閣
- ・ 検定お伊勢さん 公式テキストブック
【L243/ケ】
伊勢商工会議所・伊勢文化舎/編
伊勢商工会議所
- ・ 県史あれこれ 1【L201/ケ/1】
三重県総務部学事文書課/編集
三重県総務部学事文書課
- ・ 伊勢神宮めぐり歩き【L174/ヤ】
矢野憲一/文 中野晴生/写真 ポプラ社
- ・ 新視点 三重県の歴史【L201/シ】
毎日新聞社津市支局/編
三重県史編さんグループ/著
三重県立博物館学芸員/著
山川出版社

貳、実物が見たい！

伊勢図書館のふるさと文庫には伊勢暦が所蔵されています。

天保9（1838）～元治2（1865）年
慶應2（1866）年
明治2（1870）年 計19冊

※閲覧ご希望の方は、2階のふるさと文庫のスタッフにお伝えください。

伊勢暦の起源は室町時代末期、伊勢国飯高郡丹生（現在の多気町丹生）の賀茂家から出版されていた「丹生暦」といわれています。

寛永8（1631）年、森若大夫が出した暦が「伊勢暦」としては最初で、神宮徴古館に所蔵されていましたが戦災で失われてしまいました。

江戸時代後半になると伊勢暦は全国に普及し、200万部以上発行されました。

メモ

参， どうして「伊勢暦」が 人気だったのか？

御師がお正月前の神札配りに持参するお土産の一つとして「伊勢暦」が大変喜ばれていました。またお土産として配っていたことから「賦暦」とも呼ばれていたそうです。

「伊勢といえば暦、暦といえば伊勢」といわれるほど伊勢暦は全国各地で重宝されました。

なぜかというとも明治5（1872）年まで使われていた旧暦は月の運行を主とし、一年の日数も月の大小も毎年一定ではありませんでした。

そのため来年の暦がなければ農作業や商売に必要な一年の計画が立てられません。

伊勢暦には八十八夜（種まきの時期）や二百十日（稲の開花時期）など他の地方暦に載っていない役立つ暦註が記されていたことから大変貴重とされました。

明治16（1883）年以降、政府編纂の官暦が「神宮暦」として伊勢神宮の神宮司庁から刊行されるようになります。

現在、

「神宮暦」…日の出入や満潮時刻など天体と気象に関する身近な情報や農事情報をまとめた暦

「神宮大暦」…科学的データを基礎とし、日々の天体、気象の詳細値などをまとめた貴重な暦

以上の2種類があり、伊勢図書館のふるさと文庫にも所蔵されています。



伊勢暦は昔の人々にとって農作をする上でとても必要不可欠なものだったということが分かるね！

伊勢暦 (いせごよみ) について



昔も今もカレンダー＝暦は日常生活の必需品。今回は「伊勢暦」について調べてみましょう。

木版印刷が発達した江戸時代には太陰太陽暦（旧暦）の暦法をもとに各地で多様な暦が出版された。

そのなかで、最も多数出版され普及していたのが、伊勢神宮のお膝元、山田・宇治でつくられた伊勢暦である。～略～

大量に印刷され、また種類も豊富な伊勢暦は伊勢の御師やその手代が、毎年定期的に將軍・大名から村々の農民までの各地各層の旦那廻りを行う際に、御祓札に添えて届ける伊勢の土産の一つであった。

このように、江戸時代、伊勢暦は伊勢から全国に向けて情報を発信し、人々の生活の基準となった出版物として、人々と伊勢をつなぐ、“伊勢ブランド”の主要商品だったのである。

（「新視点 三重県の歴史」より）

伊勢市立伊勢図書館

指定管理者／株式会社図書館流通センター

〒516-0076 伊勢市八日市場町 13-35
(電話) 0596-21-0077 (FAX) 0596-21-0078

(2018.)